このニュースはFAXとメールで送信しています。地域民報への転載、各支部への配布にご活用下さい。

さっぽろ

市議団ニュース

2014年3月27日

No.109

日本共産党市議団事務局発行
電話 211-3221 FAX218-5124

看護師の労働実態、改善せよ 宮川潤議員が質問

宮川潤議員は24日の予算特別委員会で、市立札幌病院の看護職員の労働実態を明らかにし、改善を求めました。

宮川議員は、市立札幌病院で働く看護師の中で、夜勤回数が14回の方が1.5人(0.3%)、13回が17.5人(3.2%)、12回が48.3人(8.8%)にのぼることや、1年間で有給休暇を1日も取れなかった看護師が2%、1日のみ6.1%、2日のみ7%、3日のみ5.3%(3日以内の合計で20.1%)と、年休がほとんど取得できない実態を明らかにしました。

また、「公立病院が民間に比べて有利なのは、労働条件の改善がしやすいことだ。労働条件の改善をし、看護師確保を進めるべき。国に対しても、看護師養成を強めるよう要求すべきではないか」と求めました。

木内二郎経営管理部長は「全国自治体病院協議会等を通じて(国に看護師要請を増やすよう)要請しているが、今後さらに要望を強めたい」と答弁しました。

学童保育の充実、求める 伊藤りち子議員が質問

伊藤りち子議員は24日の予算特別委員会で、学童保育について質問に立ちました。

札幌市子ども・子育て会議の専門部会が今年1月、2月で2回開かれ、議論されました。伊藤議員は、「第2回定例市議会で、条例案を提案するというが、当事者や保護者が納得できるまで十分に議論し、対策がとれるように検討していくべき。先に条例化ありきの議論になってはならない」と指摘しました。

また、学童保育指導員について、国の従うべき基準では、「児童の遊びを指導する者」として全員には資格を求めています。伊藤議員は、「基準のハードルはあまりに低い。専門職として認め、教員や養護教諭、保育士などの資格を持っている方、さらに長年の実績を認められた方などを指導員としていくことが、保育の質を確保する上でも非常に重要だ」と述べ、「現在の指導員は条例化後も全員雇用すべきだ」と求めました。

浦屋謙子ども育成部長は「指導員の資格については専門性が必要と認識している。今後、国のガイドラインを参考に、職員に対する研修を関係機関とも協議しながら、体制をつくっていく」と答弁しました。